

岡山の美術展 特別展示「没後八十年 波多野華涯 筆と生きた女性」開幕！

大正から昭和初期、岡山でひとりの女性が絵筆をとって暮らしていました。彼女は、漢籍の知識に基づいて花鳥や山水を描く「南画」と呼ばれる分野で活躍し、アトリエには老若男女の門人が集いました。本年はその南画家・波多野華涯（はたのかがい）の没後八十年にあたります。

華涯の作品は確固たる筆の力や鮮麗なる色遣いに魅力があります。諸地域の師や文人たちとの交流を通じて、迫力ある画面から繊細な描写までさまざまに挑みました。

また華涯は、幼い頃から多くの下絵や手紙などを残しています。それらは子孫宅で大切に守り継がれ、華涯という画家の人生を現代に伝えていきます。

本展は、華涯の作品、師の書画や関連する中国絵画、そして華涯旧蔵資料を通じて、岡山ゆかりの近代南画家の一面に迫ります。

記

1 展覧会の概要

- (1) 会 期 令和6年7月13日(土)～8月25日(日) 9時～17時
※休館日及び夜間開館等については、チラシ等をご覧ください。
- (2) 会 場 2階展示室
- (3) 観 覧 料 一般：350円、65歳以上：170円、大学生：250円、高校生以下：無料
- (4) 関連事業 記念講演会、美術館講座、美術のタベ／フロアレクチャーも実施予定です。
- (5) 詳 細 別添チラシ及び岡山県立美術館HP(<https://okayama-kenbi.info>) をご覧ください。

2 その他

- (1) 地下展示室では、特別展「鈴木敏夫とジブリ展」を同時開催します。※7月9日(火)～9月1日(日)
- (2) 会場内の混雑状況等によっては、一時的に入場制限等を行う場合もあります。